

中之島アゴラ構想推進協議会 開催経過

○第1回中之島アゴラ構想推進協議会

日時：平成28年11月17日 15:00~16:10

場所：大阪市役所7階 市会第5委員会室

【出席者】

- ・大阪府政策企画部長 山口信彦（代理：企画室長 吉田真治）
- ・ “ 商工労働部長 津組 修（代理：成長産業振興室ライフサイエンス産業課長 池田純子）
- ・大阪市経済戦略局長 井上雅之
- ・ “ 都市計画局長 川田 均（座長）
- ・大阪商工会議所常務理事・事務局長 児玉達樹
- ・一般社団法人関西経済同友会常任幹事・事務局長 齊藤行巨（代理：会務執行部部長 金子秀一）
- ・公益社団法人関西経済連合会専務理事 松村孝夫（代理：理事・事務局次長 阿部孝次）
- ・国立大学法人大阪大学理事・副学長 小川哲生
- ・ “ 理事・副学長 吉川秀樹
- ・中之島まちみらい協議会座長 香川次朗

【議題】

- ・中之島アゴラ構想推進協議会の設置について
- ・座長選任
- ・今後の進め方について

【意見交換（ポイント）】

川田）都心に出てくるという事は大阪市内の企業といかに近接性を活かしてやっていくかという点が非常に大事。

香川）地域の連携活動に関して多方面で協議し、ともに中之島のポテンシャルアップを図っていきたい。

阿部）リサーチクラウド・アライアンス、産学連携、人材育成に強い関心を持っている。ものづくりに関する支援機関のネットワーク作りや、関西健康・医療創生会議を立ち上げて、ものづくり、ヘルスケア両分野の産学連携に取り組んでいるので、連携していきたい。

川田）京阪神の中で、この中之島を産学連携の拠点としていく場合に、京都・神戸とどう繋げていくのか。この土地の使い方が関西にとって大事であり、その点をこれから引き続き議論していきたい。

児玉）中之島に大阪大学の活動拠点が拡充されることは、大阪中心部にぎわい創出にもつながるのではないかと。経済団体だけの取組みではなく、自治体も含めて京阪神一体となっている事を国に打ち出すための会合をもっており、こういったものをうまく使いながら、中之島が新たな産学連携のイノベーションの拠点になっていくような方向付けができればよい。

川田）京都、神戸大学の研究機関とのさらなるネットワークなど、京阪神としての連携の可能性はあるのか。

小川) 大阪大学は、5つほどの共同利用・共同研究拠点を擁しており、大阪大学のリサーチクラウド・アライアンスに繋がることで、一気に全国と繋がれる。ほとんどの研究所が海外の研究拠点とのネットワークを既に持っており、大阪大学と繋がる事によって、全国、あるいは世界と繋がるハブ機能をもたせることができると思っており、そういう立ち位置での大阪大学の使い方も是非アピールしていきたい。

金子) うめきた2期、中之島5丁目など、後続するまちづくり活性化のトリガーとなることは社会的意義がある。中之島4丁目再生医療国際拠点検討協議会とも連携し、医療関連ゾーンとアゴラゾーンの連携を進めて、文化・医療の融合を進めてほしい。

吉田) 産学共創、社学共創といった機能を、うめきた同様、大阪の顔であり、京阪神の中心でもある、この中之島において実現するための環境づくりなど、構想を実現していくために、府としてどういった事ができるのか議論していきたい。

川田) 経済界、協議会の企業の目線から見た時に、産学共創、社学共創の中で特に、大阪大学にプライオリティを高くやっていただきたい部分とか、リファインしてもらう方が企業として産学連携をやりやすい部分だとか、会員企業から声を吸い取っていただき、提示してほしい。大阪大学には、具体的な内容、あるいは時間軸等を詰めていただき、次回は具体論に踏み込めればと思っている。

○第2回中之島アゴラ構想推進協議会

日 時 : 平成29年2月8日 10:00~11:30

場 所 : 大阪市役所7階 市会第6委員会室

【出席者】

- ・大阪府政策企画部企画室長 吉田真治
- ・ // 商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課長 池田純子
- ・大阪市経済戦略局イノベーション担当部長 高田滋美
- ・ // 博物館改革担当部長 花澤 隆博
- ・ // 都市計画局長 川田 均
- ・大阪商工会議所常務理事・事務局長 児玉達樹
- ・一般社団法人関西経済同友会医療都市「関西」委員会委員長 更家悠介
- ・公益社団法人関西経済連合会理事・事務局長 阿部孝次
- ・国立大学法人大阪大学 理事・副学長 小川哲生
- ・ // 理事・副学長 吉川秀樹
- ・中之島まちみらい協議会座長 香川次朗

【議 題】

- ・中之島アゴラ構想の実現に向けて

【意見交換（ポイント）】

小川) 財源確保は重要な問題である。大阪大学として寄付金集めや募金活動を開始したが、延床20,000㎡程度の建物を建てるための資金約60~90億円は集められないと考えているので、協議会の場で検討をしていただきたい。また西側の7,500㎡部分についても、中身的なことで協

力していくが、大阪大学としては実現性を考えると、まずアート拠点、産学共創クロスイノベーション拠点を新美術館西隣の4,500㎡でスタートするのが適切と思っている。

小川) 我々が一番決断しようとしているのは、文学研究科の一部をこの地に持ってくること。

更家) 内容がクリアになれば参加企業も出てくると思う。場所借りや施設費用の拠出あたりがわかりやすいと思っており、具体的にそういうところを詰めていただくと声もかけやすい。

川田) 共同研究ユニットにRCAの強みである「光」「物質」「インダストリー」などを際立たせ、経済界、企業の関心を集めていただき、企業がこれなら産学連携をやろう、となるものを来年度も含めて詰めていきたいと思っている。

小川) 中之島だからこそやれる産学連携の特徴は出していきたい。例えば、地元の企業の水平的に協調できる業種などと組んで、多企業対大阪大学というやり方の産学連携なども模索できればいいと思っている。

吉川) 吹田の共同研究講座はいっぱいの状態。ぜひ関西の企業に中之島でやってほしい。再生医療関係の共同研究講座は、再生医療国際拠点側と連携できると思う。4,500㎡については、文化・芸術のエリアとして、産学連携でも医療と関係のない企業を集めていった方がきれいになると思う。関連する共同研究講座は連携するなど、すみわけはこれから考えていく必要がある。

香川) 協議会として構想に期待。ソフト面が中心になるかもしれないが、構想が検討される中で色々な形でしっかり協力させていただく。

川田) 構想をより高めるために、まちみらい協議会としてどういったアクティビティをやっていけるか、連携の具体的な内容であるとか、場合によっては施設に対してこういう施設構成にしていけばよいのでは、という深める議論をやっていただければ、いい計画になっていくと思う。

阿部) 基本方針(素案)のコンセプトやアゴラの意義が大阪大学ありきになっているが、まず、中之島にどのような機能を配置させるのかという記載を追加すべきでは。

小川) 大阪大学ありきでスタートするのではなく、本協議会における、色々な理念・目標・理想の中で大阪大学を位置付けると筋が通るのではないか。

川田) その流れで基本方針を修正し、後日確認させていただく。

小川) ここを大阪大学が絶対にやる、やれると捉えられると困る。資金のことは協議会で議論することと確認させていただきたい。中之島センター以外の産学共創クロスイノベーション拠点やアート拠点が、協議会の基本方針となれば、産学共創をどのような分野、テーマでやれるのかなど、大阪大学として次のステップでお見せできると思う。

川田) アゴラの計画についても、空間的な調整も必要と思っている。スキームの問題も、産学連携のテーマや関心ある企業のボリューム感によって可変していくものだと思うので、その辺を来年度詰めていきたいと思っている。